

3歳からはじめる矯正治療



当医院では**反対咬合(受け口)**の早期・初期治療に積極的に取り組んでいます。

反対咬合(受け口)は永久歯が生えるときに自然に治る場合もあります。しかし、かなり少数例(16%程度)です。

近親に反対咬合の人がいる、反対になっている下顎の歯が5～6本ある、逆になった噛み合わせが深い。これらの場合、自然に治る確率は極めて少ないです。

1歳6ヶ月歯科検診、3歳児歯科検診で指摘される歯列不正の大半がこの**反対咬合**いわゆる**受け口**といわれるものです。

『永久歯に生え変わるまで様子を見ましょう』というのが一般的な今までの考え方でしたが、3歳児歯科検診で**反対咬合**を発見し、前歯が永久歯に生え変わる(小学校低学年)のに少なくとも4～5年放置することになります。3歳児から小学生までにどれだけの成長をするのでしょうか？歯並びを改善するには決して遅いことはありませんが、様子を見ている(放置)間にも顎の過成長は進み、それに伴い顎の周りの筋肉も**反対咬合**にあった成長発育をしていき、受け口・口がいつもポカンと開いている・舌足らずなしゃべり方、何より私たちが治療を勧める第一の理由は、審美的な理由です。反対咬合特有の顔貌に劣等感を感じることがあります。心の負担を軽くし、生活の質の向上が目標です。

早期治療を行うことで、その後本格矯正に移行した際でも治療期間・費用ともに軽減できます。